

しらふじ

第93号

令和5年2月28日

発行/更生保護法人

しらふじ

発行責任者/大野美雄

編集責任者/松本英史

「しらふじ」 社会貢献者表彰受賞

更生保護法人「しらふじ」が昨年12月、社会貢献支援財団（公益財団法人）から社会貢献者表彰を受けました。それを記念し、施設名の由来となった「しらふじ」にまつわるエッセイ「聞こえていますか かつこうの声」を冊子として刊行。その全文をシリーズで紹介いたします。また、冊子、表彰式の様子も今号でお伝えします。



写真はイメージです(大西大和氏提供)

聞こえていますか かつこうの声

題字
袋井市曹洞宗可睡齋前山主
安来市曹洞宗松源寺東堂
佐瀬道淳老師

No. 1

元更生保護法人島根更生保護会主幹

川井 昭一

白藤の咲くとき

主任官から「無期の環境調整をやってみませんか」と言われたとき、戸惑いはあったが、これまでどおりにやっていけばよいだろうと思つて、「引き受けましょう。頑張つてやってみますから」と答えた。しかしながら、無期刑受刑者と付き合うのは初めてのこと、今までに三〇〇人を超える寮生たちを迎えたが、彼らは皆有期の刑を受けた者ばかりで、多少の不安がないとは言えなかった。

中里直（仮名）の身上調査書類一式を受け取って目を通して見ると、水上勉の『長い橋』の一節が思い出された。

「……とことんまで見なければ気がすまない雪枝の性分でもある。かの子が故郷の信州佐久まで歩をのぼしたのも同じ興味からだった。興味といってしまえば、すこしはずれるが、雪枝は、対象者を頂戴したからには、その出自の場所を見ないことは、人間の深部にふれることはできないと信じこんでいる。」

生い立ちから罪を犯すまでの軌跡を知ること、今後の処遇の参考になればと、知り合いの記者を通じて事件当時の新聞をコピーしてもらい、中里の故郷を訪ねて事件の背景を探ってみようと思った。

いつもの環境調整の担当開始時と同じように、所定のアンケート用紙に私の手紙を添えて中里に送った。間もなく返事が届いて、おぼろげながら事件に至るまでの内容を知ることができた。

中里は中学を卒業すると大阪に出て土木作業員になり、その後、職を転々としながら二五年の月日がたった。この間、結婚

をして子供ももうけたが、この幸せな生活も長くは続かなかつたらしい。次第に酒におぼれるようになり、妻への暴力が絶えず間なく繰り返され、これに耐えかねた妻はひそかに中里のもとを離れていったのである。妻に

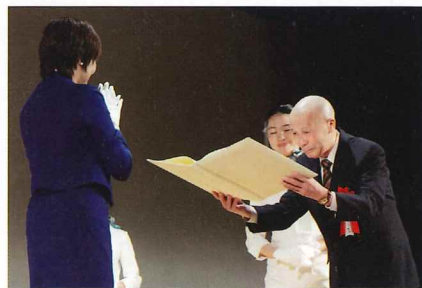
去られて孤独の日々を送っていたころ、たまった飲食代を請求され、口論の末、激高して飲食店の主人を殺害し、処置に困って、その死体を海に遺棄したのだった。刑に服して一〇年後、身元引

表彰式 安倍昭恵会長から受賞

更なる精進を！

決意あらた

公益財団法人社会貢献支援財団から表彰していただきました。ひとえに「しらふじ」を支えてくださる皆さま方のおかげと、心から感謝申し上げます。



安倍昭恵会長(左)から表彰を受ける大野美雄理事長

問題、子ども食堂、いのちの電話、発展途上国支援等々、いずれも素晴らしい活動をしておられました。更生保護では、「しらふじ」と旭川保護会が

受賞しました。

昨年12月5日、第58回社会貢献者表彰式典が帝国ホテル東京で開催され、矢野喜郎施設長と共に出席しました。団体と個人合わせて29件の受賞でした。

前日は受賞者懇談会と夕食会があり、1分半という限られた時間の中で「しらふじ」の活動を発表しました。受賞者は環境

式典では安倍昭恵会長から表彰状をいただきました。「多様化の中で忘れられがちなことに光を当てる。更に力を尽くしていただきたい」。来賓の笹川洋平日本財団会長のあいさつに決意を新たにしました。

理事長 大野美雄

受人であった父親が死亡した後を継いだ弟に引受人になってもらおうとしたが、その要望はにもなく拒絶されてしまい、困り果てた中里は、島根更生保護会を居住地として希望していたのだった。(続く)

表彰

(敬称略)

◆令和四年秋の叙勲

しらふじ副理事長

瑞宝双光章 井谷耕造

◆安心安全なまちづくり関係功労者

内閣総理大臣表彰

◆中国地方更生保護委員会委員長表彰

しらふじ理事

田中 廣

◆中国地方更生施設連盟会長表彰

しらふじ評議員

池田祐二

◆松江保護観察所長表彰

しらふじ評議員

浪花秀明

◆松江保護観察所長表彰

しらふじ常務理事

舟越幹洋

◆松江保護観察所長表彰

しらふじ調理員

米山 隆

◆松江保護観察所長表彰

しらふじ補導主任

上田喜平

◆松江保護観察所長表彰

原 利行

施設の運営にご協力をお願い

施設や事業の充実のために物品や資金が必要です。そのためご寄贈をお願いし、会員を募集いたします。会員と年会費は下記のとおりです。

しらふじの会
会員の募集

- 賛助会員 2,000円以上
- 普通会員 5,000円以上
- 特別会員 10,000円以上
- 法人会員 20,000円以上

入金及び ゆうちょ銀行(口座番号) 01450-1-30366
寄付金振込先 加入者名 更生保護法人しらふじ

詳しいことは、下記までおたずねください。
更生保護法人しらふじ 松江市奥谷町306-1
TEL 0852-21-5383 FAX 0852-67-5393
メールアドレス: shimanekouseihogokai@sage.ocn.ne.jp
HPアドレス: http://shirafuji-shimane.com

しらふじ 検索 でも検索できます。

実習服寄贈で総理大臣賞

県立松江工業高校JRC部

松江JRC部員

喜び爆発

私たち松江工業高校JRC部は、貴団体（しらふじ）への実習服寄贈の活動が評価され、内閣総理大臣賞を受賞しました。受賞の一報を受けたときはとても驚きましたが、学校行事が重なり、表彰式にも参加できなかったこともあり、なかなか実感がわきませんでした。しかし、新聞記者の方から取材を受けたり、多くの方から声をかけてもらったりするうちに、この賞の重みを感じることが多くなりました。

私たちが普段、校内外の清掃などのボランティア活動を細々と行っています。

実習服の活動は、一年のわずかな時期のもので、洗濯や仕分け、こん包といった地味な作業です。しかし、このささやかな活動が人の役立っていたことに誇りを持ち、これからも贈ることができるように頑張りたいと思います。



内閣総理大臣賞受賞を喜ぶ松江工業高校JRC部員

受賞記念し冊子を発刊

「聞こえていますか かつこうの声が」は、「しらふじ」の前身である島根更生保護会に主幹として勤務していた川井昭一さんの作品で、日本更生保護協会発行の月刊誌「更生保護」（平成13年12月号）に掲載されました。川井さんが担当保護司としてかわつた無期受刑者と、その母親にまつわる切なく哀しい実話です。

川井さんに白藤の苗木を託した母親の思い、償いきれない罪の重み、周囲の目、2人を見守る川井さんの温かいまなざし：3人の思いが交錯して読む人の胸を打ちます。千部を発刊し、県内外の関係機関・施設、関係者に届けます。問い合わせは更生保護法人「しらふじ」（Tel 0852・21・5383）まで。





お便り

この10月で、出所して3年になります。こんなことは初めてです。12月で71歳になりました。年金も掛けて

いないので仕事を続けなければなりません。残暑が続きますが皆さん、ご自愛ください。まずは、報告まで。

(K・Kさん)

「法話の集い」利用者感想

私たちが日々口にする食事について。自分の口に入るまでにどれだけの人が関わったのか。このことは食事だけではありません。私たちが日々過ごす総ての物がそうであるので感謝をして過ごさなければなら

らない。当たり前のことですが、物のあふれた今の世の中、よくよく考えなければならぬ事を聞きました。教えを今後の生活に生かしていきます。

(M・Kさん)

講話を聴いて思ったこと。一つは「五観の偈」です。作つてくださる方への労に感謝する。命をいただくのだから普段から徳のある行いに心掛

ける。心の散乱を治す。感謝して食事をいただくことを聴きました。私には大変ためになる話でした。

(T・Iさん)

講話で、六道ということ聞きました。その後、椅子に座つての座禅が10分ほどありました。なにも考えずに無心でとの事でしたが暑さもありませんでした。前

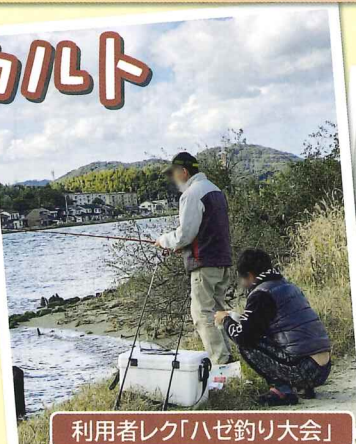
向きに焦らず、一歩ずつ更生や社会復帰に向け一生懸命頑張ることで、安心をして生活ができるようにすることが、目標の一つです。

(T・Yさん)

写真アラクハルト



小豆雑煮とおせち



利用者レク「ハゼ釣り大会」

松江刑務所矯正展「しらふじ」ブース



来訪者

(敬称略)

- ◆ 松江地区更生保護女性会食事支援
 - 城北支部 1名・城西支部 1名
 - ・ 城東支部 2名・BBS 1名
- ◆ 松江地区更生保護女性会食事支援
 - 城北支部 2名・法吉支部 1名
 - ・ 雑賀支部 1名
- ◆ 島根保護観察協会校井理事長 他2名
- ◆ 松江地区更生保護女性会食事支援
 - 白潟支部 1名・朝日支部 1名
 - ・ 城北支部 2名
- ◆ 出雲地区保護司会研修 4名
- ◆ 中国委員会委員施設見学 1名
- ◆ 松江地区更生保護女性会食事支援
 - 竹矢支部 1名・津田支部 1名
 - ・ 城北支部 1名・BBS 1名
- ◆ 新任更生保護女性会研修
- ◆ 法話の集い 観音寺 藤原 玄光師
- ◆ 雲南地区保護司会研修 17名
- ◆ 島根県済生会江津総合病院
 - 無料健康診断 6名
- ◆ 大山町視察 16名
- ◆ 松江地区更生保護女性会食事支援
 - 城北支部 1名・持田支部 1名
 - ・ 川津支部 2名
- ◆ 松江地区更生保護女性会
 - コラージュ作成会 川津支部 4名
- ◆ 松江市本庄町公民館人権研修 18名
- ◆ 松江地区更生保護女性会食事支援
 - 本庄支部 1名・城北支部 2名
 - ・ 朝酌支部 1名・BBS 2名
- ◆ 今治地区第二分区保護司会視察 15名

(令和4年7月1日～令和4年12月31日)



出雲市保護司会

寄付金

(敬称略)

- ◆西 億都 ◆飯南町志々公民館
 - ◆舟越憲雄 ◆出雲地区更生保護女性会
 - ◆松江湖城ライオンズクラブ
 - ◆鹿島地区更生保護女性会
 - ◆日蓮宗島根県社会教化事業協会
 - ◆常教寺 ◆宍道地区更生保護女性会
 - ◆島根県更生保護女性連盟
 - ◆愛媛県今治地区保護司会第二分区
 - ◆平田地区更生保護女性会
 - ◆公益財団法人清心内海塾
 - ◆玉湯地区更生保護女性会
 - ◆東出雲地区更生保護女性会
- (令和4年7月1日～令和4年12月31日)

寄付品

(敬称略)

- ◆吉野光徳／野菜
- ◆更生保護施設等支援協議会(事務局)
- ◆藤本晴男／食品・飲料・お菓子・米
- ◆江津市更生保護女性会／衣類・下着・靴
- ◆山本寿子／米
- ◆龍雲寺／食品
- ◆株式会社松文オフテック／飲料
- ◆中村弘恵／衣類
- ◆橋本道子／果物
- ◆邑智地区更生保護女性会川本支部
- ◆佐々木ミチ子／米・衣類・かばん
- ◆出雲地区保護司会
- ◆衣類・かばん・靴・タオルほか日用品
- ◆南山智恵子／食品
- ◆江津市更生保護女性会／衣類・タオル
- ◆サンラボーむらくも高橋課長／衣類
- ◆井上民子／衣類
- ◆木山嘉子／衣類

- ◆米田祝子／米
- ◆福井邦明／米
- ◆和工業／米

- ◆松江湖城ライオンズクラブ／日用品
- ◆大菅あけみ／衣類
- ◆飯石地区更生保護女性会／米
- ◆雲南地区保護司会／衣類・米・食品
- ◆島根地区更生保護女性会／衣類・日用品
- ◆井谷耕造／作業着
- ◆佐々木滋子／お盆・コップ
- ◆邑智地区更生保護女性会邑南支部

- ◆北山尚男／米
- ◆矢野雅子／マスク・食品
- ◆鹿島地区更生保護女性会
- ◆小谷幸子／衣類
- ◆東出雲地区更生保護女性会
- ◆花田なをみ／野菜
- ◆陶山和實／マスク
- ◆松江地区更生保護女性会
- ◆クリスマスプレゼント
- ◆多根の郷／日用品
- ◆鹿足地区更生保護女性会日原支部



島根地区更生保護女性会 松江湖城ライオンズクラブ

- ◆真誠興業／お菓子
 - ◆愛媛県今治地区保護司会第二分区／お菓子
 - ◆金子健雄／野菜
 - ◆松江地区更生保護女性会大庭支部
 - ◆LCC株式会社／お菓子
 - ◆佐藤啓子／野菜
 - ◆WA代表 藤井真理(水元龍之介)
 - ◆門松そば
- (令和4年7月1日～令和4年12月31日)

令和4年支援事業所

お詫びと訂正「しらふじ」第92号の「寄付品欄」に、「石川咲子／洗剤」の掲載漏れがあり、ご迷惑をおかけしました。お詫び申し上げます。

しらふじ友の会

(敬称略)

- ◆有限会社サインプラン
 - ◆株式会社昭和建築
 - ◆株式会社日新電工
 - ◆カナツ技建工業株式会社
 - ◆株式会社小草建築設計事務所
 - ◆有限会社キョウワビルト工業
 - ◆株式会社松文オフテック
 - ◆株式会社ユニコン
 - ◆福岡商事株式会社 ◆松本金物建材店
 - ◆石川咲子 ◆西原倍子 ◆布志原進
 - ◆藤田教造 ◆大野徹雄
 - ◆株式会社マサコーポレーション
 - ◆代表取締役 永原秀治
 - ◆今岡克己 ◆落合美恵子 ◆内藤昇
 - ◆廣江友江 ◆田中智津子 ◆細田淳子
 - ◆古藤美紀
 - ◆株式会社長岡塗装店
 - ◆代表取締役 古志野功
 - ◆坂根 勝 ◆永田典子 ◆佐々木幸美
 - ◆村上充峰 ◆野田律子 ◆福岡典子
 - ◆神庭恭子 ◆鶴鶴 治 ◆坂本光弘
 - ◆土井一頭 ◆弘長寺 ◆尾添 隆
 - ◆中路秀夫 ◆後藤 勇 ◆岡 賢治
 - ◆【普通会員】
 - ◆宗教法人十楽寺代表役員 伊藤皓元
 - ◆岩屋寺 高橋英範 ◆宗淵寺
 - ◆島根県遊技業協同組合理事長 洪 錫圭
 - ◆石飛博雄 ◆陶山和實 ◆近藤佳郎
 - ◆宗圓寺 ◆佐野孝山 ◆山崎清晃
 - ◆全隆寺 ◆金子卓夫 ◆勝部治良
 - ◆白石照雄 ◆金山節子 ◆藤島義信
 - ◆熊澤好弘 ◆有限会社高浜印刷
 - ◆佐藤良元 ◆橋本道子 ◆野津イマ子
 - ◆窪田幸正 ◆武田フヂ工 ◆朝山一玄
 - ◆佐々木知江三 ◆米原伸夫
 - ◆株式会社千茶荘 原田瑞樹
 - ◆常楽寺護持会代表山根 ◆大野志保
 - ◆【特別会員】
 - ◆舟越憲雄 ◆松本金物建材店 ◆坂本圭祥
 - ◆石川正伸 ◆渡部卓史
 - ◆邑智地区保護司会 ◆青木壮文
 - ◆浪花秀明 ◆曹洞宗善慶寺 原 昭全
 - ◆佐々木滋子 ◆観知寺 糸賀太道
 - ◆青木薫代 ◆安養寺 村上正光
 - ◆高橋百合子 ◆雲南地区保護司会
 - ◆吉長義親 ◆龍雲寺 西尾清文
 - ◆浄心寺 田中信道 ◆井谷耕造 ◆薬師寺
 - ◆全龍寺 ◆松原紀子 ◆株式会社庭の川島
 - ◆飯石地区更生保護女性会 ◆澤 真吾
 - ◆海士町更生保護女性会
 - ◆平田地区更生保護女性会
 - ◆【法人会員】
 - ◆株式会社日新電工 ◆出雲地区保護司会
 - ◆合資会社 一文字家
 - ◆出雲地区更生保護女性会
 - ◆株式会社 博愛社 ◆松江地区保護司会
 - ◆大社地区更生保護女性会
 - ◆益田市更生保護女性会
 - ◆松江地区更生保護女性会
 - ◆曹洞宗島根県第二事務所
 - ◆吾郷計宜 ◆カナツ技建工業株式会社
 - ◆浜田地区更生保護女性会浜田支部
 - ◆桐岳寺 ◆大野美雄
- (令和4年7月1日～令和4年12月31日)

ウクライナのカボチャ届く

「平和」の祈りこめ稲田さん



ウクライナの巨大なカボチャ10個が「しらふじ」に届きました。カボチャは松江市民児童委員協議会連合会の稲田宗さん(68)＝松江市八雲町西岩坂＝が、仕事の関係でウクライナを訪れた際、種を購入し、持ち帰って育てたものです。

稲田さんは海外に行く機会が多く、外国に行くとホームセンターに立ち寄り、種を買って帰ったそうです。ウクライナの首都・キーウを訪問したのは10年前。訪問時のウクライナは旧ソ連から独立して間もなくで、ホームセンターのような店はなく、野菜や魚介類、雑貨が並ぶ市場の種屋で、カボチャの種類2種類を購入。帰国して畑で育てると、1種類は育たなかつたものの、もう1種類は見事な実をつけました。それ以来、毎年、育てています。

ウクライナは冬が寒く、カボチャはスープにして食べられているとのこと。稲田さんから贈られたカボチャは大きいものでは、長さ40センチ、太い部分の直径は20センチ、重さは10キロも日本では見かけることのない品種で、珍しいものです。ひょうたんが大きくなったような形をしていました。

大野美雄理事長にカボチャを手渡した稲田さんは「冬至にカボチャを食べるとビタミンCがあり、風邪をひかないという。利用者の皆さんが健康で冬を過ごしてほしい」と話しました。大野理事長はロシアから侵攻を受けるウクライナの人々に思いを巡らせながら「平和はありがたい。利用者にはいいカボチャをいただき、ありがとうございます」と、お礼を述べました。



稲田宗さん(左)からカボチャを受け取る大野美雄理事長

白南天



松の内が明けて間もない日、ケータインの着音。「お元氣ですか」―電話口からは、名古屋を中心に活動するソプラノ歌手下垣真希さんの明るく、さわやかな声。10数年ぶりでしょうか。

下垣さんとの出会いは、21年前に名古屋市内であった、とある業界の全国大会。ゲストの下垣さんが「両親は島根出身、永井隆博士とも縁があります」と自己紹介し、あの「長崎の鐘」を朗々と歌い上げたのです。原爆で妻を亡くし、自らも被爆しながら原爆病の研究・発表や長崎の復興のために尽くした人、「長崎の鐘」は博士の随筆がモチーフ……など永井博士のことは長々と説明する必要はありませんよね。ひよんなこと知り合ってから、下垣さんは博士の生誕地・松江市、育った雲南市など島根県内で6回のコンサートを開催。島根と博士との縁を語り、彼女のために友人が編曲したパイプオルガンで始まる「長崎の鐘」を思い入れた、ぶりに歌うことができました。

分、投下された原爆で授業中に被爆。クラスでただ一人生き残った叔父は、故郷へ帰りたい一心だったに違いありません。あくる日には上半身裸、髪は逆立ち、唇は腫れあがり、亡霊の様な姿で温泉津町の家までたどり着きます。妹の必死の看病むなしく1週間後、叔父は天国へ。17歳の若さでした。

「ここからは、下垣さんと永井博士をめぐる不思議なお話。終戦の年の1945年7月、下垣さんの叔父(父の弟)が長崎医科大学(今の長崎大医学部)に進学し、博士宅に下宿します。が、わずか11カ月後の8月9日午前11時2

その後、ハき地医療のため一家は岐阜県の下呂に移り住み、音楽家の道を歩んだ下垣さんはドイツへ留学。バルリーの壁崩壊を目の当たりにし、2000年のハノーバー万博ではアジア代表として独唱で日本の歌を披露します。日本の歌を集めたCDを思い立ち、「選曲したが、どうしても1曲足りない。何気なく選んだ(下垣さん)のが「長崎の鐘」。収録を終えてプレスが始まった5月1日は、博士の50年目の命日でした。下垣さんの記憶にあるのは、博士の書「平和を」が掲げられた下呂の自宅で医師の父から聞いた博士の話ぐらい。かくして、「長崎の鐘」は下垣さんのためにある曲となったのです。

ロシアの不当なウクライナ侵攻が端緒となり、世界中の人々が「平和」を求めています。「人を許しましょう。人を愛しましょう。憎しみからは何も生まれません」と下垣さん。彼女の美しいソプラノをまた島根の地で聴きたい。心底そう思いました。

(瑛)